

2011年2月21日

各位

ダイセル化学工業株式会社

新中期計画『3D-I（スリーディーワン）』の策定について

ダイセル化学グループは、このたび、長期ビジョン達成に向けた『3D Step-up Plan』の1stステップとなる新中期計画『3D-I（スリーディーワン）』（計画期間：2011年度～2013年度）を策定しました。

『3D-I』は、長期ビジョンで掲げた当社グループの未来像「世界に誇れる『ベストソリューション』実現企業グループ」に向かう1stステップとして、2013年度までの業績目標や具体的な施策を定めたものです。

3D Step-up Plan



『3D-I』の概要

1. 経営目標

『3D-I』では、次の2点を経営目標として設定しています。

- ① 2013年度連結業績
売上高 4,200億円、営業利益 450億円
- ② 新規事業創出の加速

次の7点を実行していくことで、経営目標の達成をめざします。

- 新規事業の創出
- コア事業のさらなる強化
- コスト競争力の強化
- グローバルでの事業展開の拡大・強化

- ビジネスパートナーとの連携強化
- 戦略的 M&A の活用
- 基盤の強化

7点の詳細は以下の通りです。

(1) 新規事業の創出

当社グループのコア技術であるセルロース、有機合成、高分子、火薬工学をベースに、新規事業の創出に取り組みます。

先行してプロジェクト活動として取り組んでいる、電子・情報産業分野をターゲットとした機能化学品と表示デバイス分野をターゲットとした機能フィルムを、エレクトロニクス市場向け機能材料事業として存在感のある事業規模に育成します。同時にこれからの成長分野であるメディカル・ヘルスケア、環境、エネルギーの領域で、新規ビジネスユニットの創出に取り組んでいきます。スピードと確実性を上げていくため、下記の施策を講じていきます。

- 研究開発費の拡充
- プロジェクト活動の拡大
- 人的資源の傾斜配置

(2) コア事業のさらなる強化

① セルロース事業

フラットパネルディスプレイ市場の拡大やたばこフィルター用トウの需要の拡大を背景に、液晶表示向けフィルム用三酢酸セルロース（TAC）とたばこフィルター用トウの拡販により安定的成長を実現します。TAC 関連事業の継続的成長を図るため、光学表示材料周辺の研究開発を強化します。たばこフィルター用トウについて、設備能力の増強を検討します。お客様との強い結びつきを活かし、関連領域で新規事業を探索していきます。

② 有機合成事業

有機合成品事業では、アセチルチェーン、エタノールチェーンの強化、拡大を進め、安定した収益基盤を構築します。

機能品事業では、過酢酸誘導体事業を一層強化するとともに、機能材料の開発・事業化を加速させるための体制の整備を図ります。

キラルケミカル事業では、中国、インドを中心とした拡大と一層のグローバル化を進めるほか、コアビジネスの周辺ビジネスや新規ビジネスを探索していきます。

③ 合成樹脂事業

エンジニアリングプラスチック事業は、中国やインドなどの新興国での拡販

や環境・エネルギー・安全などの成長分野への製品投入により、事業の継続的拡大を図ります。

樹脂コンパウンド事業は、中国を中心としたアジアでのビジネスを強化、拡大していきます。

樹脂加工事業は、アジア市場への展開の可能性を探るほか、グループ連携による高機能製品の開発に注力していきます。

④ 火工品事業

自動車エアバッグ用インフレーター事業は、自動車生産の伸びる中国、新興国を中心とした拡販や外資カーメーカーへのアプローチを強化することで、世界シェアを上げていきます。グローバルに規模を拡大していくために、安全・品質向上を基本とし、グローバルでの最適な生産・調達・物流体制を構築します。また、関連部品や周辺材料の内製化を積極的に推進し、垂直統合化を図ることにより、収益性の向上に努めます。新規事業創出に関しては、火工品技術を用いた新規安全デバイスの開発に取り組みます。

特機事業では、防衛事業拡大への足固めを行うとともに、防衛事業で培ったシステム開発技術を活用し、民需事業の創出をめざします。

⑤ メンブレン事業

メンブレン事業は、水処理用分離膜モジュール事業を基盤とし、装置・システム事業およびメンテナンス事業を拡大していきます。中国を始めとする海外市場への展開も図ります。

(3) コスト競争力の強化

海外品との競合の激化や原料高、円高という外部環境の変化に対応するため、コスト競争力の強化を図ります。

(4) グローバルでの事業展開の拡大・強化

中国、インドを中心に拡大する需要を着実にとらえるために、グローバルでの事業展開の拡大・強化に取り組みます。2013年度には海外売上高比率が45%超となる見込みです。

(5) ビジネスパートナーとの連携強化

「新規事業の創出」と「コア事業のさらなる強化」にスピード感をもって取り組んでいくため、ビジネスパートナーとの連携強化を図っていきます。

(6) 戦略的 M&A の活用

総枠で1,000億円を視野に、戦略的 M&A を模索していきます。

(7) 基盤の強化

コーポレートが横串機能を発揮し、カンパニーやグループ企業と協業して、生産革新活動、プロセス革新活動、業務革新活動に取り組むことで、グループ全体でモノづくりの基盤を一層強化していきます。重点課題として、さらなる生産性の向上、コストダウン、革新的な省エネルギーの推進に取り組めます。

具体的数値目標としては、60億円のコストダウン（2009年度比）と年平均1%以上のエネルギー原単位の低減をめざします。

2. 重視する経営指標

第2次長期計画では、グループ全体での資産効率の向上とキャッシュフローの極大化をめざすため、ROA（総資産経常利益率）を重視する経営指標としてきましたが、『3D-I』では、株主の皆様からお預かりした資金をいかに効率的に使っているかを示す指標であるROE（自己資本利益率）を重視する経営指標とし、10%をめざします。

3. 株主還元

これまでの安定的・継続的な配当を基本としながら、各事業年度の連結業績も考慮した配当を実施します。また、自己株式の取得についても、配当を補完する還元策として機動的に実施します。

以 上

(参考)

セグメント別連結業績計画

2013年度のセグメント別業績計画は次のとおりです。

	2010年度予想	2013年度計画
売上高（億円）	3,570	4,200
セルロース事業部門	770	810
有機合成事業部門	820	963
合成樹脂事業部門	1,375	1,639
火工品事業部門	540	698
その他事業部門	65	90
営業利益（億円）	340	450
セルロース事業部門	125	136
有機合成事業部門	77	99
合成樹脂事業部門	145	194
火工品事業部門	63	95
その他事業部門	10	11
消去又は全社	▲80	▲85

〈本件に関するお問い合わせ先〉

ダイセル化学工業株式会社 事業支援センター IR 広報グループ

電話 : 03 - 6711 - 8121